

ポスト構造主義

2017年追試

問8 次の文章は、サイードが「新たな連携関係」について論じているものである。その内容の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

8

今、私たちは、国境を越え、ステレオタイプを越え、民族を越え、本質を越えて形成される新たな連携関係が急速に生まれつつあるを感じ始めている。このような新たな連携関係の出現によって、かつて文化的思考の中心をなしていた、根本的に静的なアイデンティティ概念が問い直されているのだ。ほぼ五百年前に始まったヨーロッパ人とその「他者」との交流を通して存在してきたのは、「我々」と「彼ら」というものが、それぞれ極めて固定した、明白な疑う余地のないほど当たり前のものとして存在しているという考え方だった。……しかし、「我々」は「我々のもの」だけにもっぱら関心を寄せるべきであるという立場を私は断固として却下する。……すべての文化は重なり合っている。単一で純粋な文化などない。すべての文化は雑種的かつ異種混濁^{こんごう}的で、異様なまでに細分化され、一枚岩的ではないのだ。

(『文化と帝国主義』より)

- ① 新たな連携関係においては、所属する国や民族、背景とする歴史の異なる「我々」と「彼ら」が、互いの差異に関心を寄せつつ、おのおの固有の純粋な文化を守り育てていくことが求められている。
- ② 新たな連携関係においては、所属する国や民族、背景とする歴史の異なる「我々」と「彼ら」が、互いを隔てる境界線を侵犯せず、これまでの安定した関係を維持したうえで協力していくことが求められている。
- ③ 「我々」と「彼ら」という従来の枠組みを越える、新たな連携関係が出現し、私たちが人間という一つのアイデンティティをもつものであること、無数に細分化された文化を統一し得る主体であることが明らかになっている。
- ④ 「我々」と「彼ら」という従来の枠組みを越える、新たな連携関係が出現

し、アイデンティティが固定したものではないこと、そもそもいかなる文化も一枚岩的ではなく、重なり合うものであることが明らかになっている。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第1問	問8	8	④	3

2016 年追試

問 4 次のア～ウは、言葉について思索した思想家たちを説明したものであるが、それぞれ誰のことか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

4

- ア 言葉や概念を用いる際の二項対立図式のうちに、西洋哲学の伝統的な形而上学的傾向を見だし、そのような思考を揺り動かす脱構築を試みた。
- イ 言葉や概念の意味が、行為によって生み出される結果を通じて決定されると主張し、自己の立場をプラグマティズムと命名した。
- ウ 言葉で語り得るか否かという観点から、経験的な自然科学の命題を論理学や倫理の命題などと峻別^{しゅんべつ}し、分析哲学の形成に影響を与えた。

- | | | | | | | |
|---|---|-------|---|-----|---|------------|
| ① | ア | デリダ | イ | ポパー | ウ | ラカン |
| ② | ア | デリダ | イ | ポパー | ウ | ウイトゲンシュタイン |
| ③ | ア | デリダ | イ | パース | ウ | ラカン |
| ④ | ア | デリダ | イ | パース | ウ | ウイトゲンシュタイン |
| ⑤ | ア | ベンヤミン | イ | ポパー | ウ | ラカン |
| ⑥ | ア | ベンヤミン | イ | ポパー | ウ | ウイトゲンシュタイン |
| ⑦ | ア | ベンヤミン | イ | パース | ウ | ラカン |
| ⑧ | ア | ベンヤミン | イ | パース | ウ | ウイトゲンシュタイン |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 4	4	④	3

2011 年追試

問 1 自文化だけが優れたものと考え、他文化を劣ったものとする自民族・自文化中心主義に関して、次のア～ウは、近代西洋文明における自民族・自文化中心主義を批判した思想家であり、A～Cはその思想に関する記述である。これらの思想家とその思想の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

31

- ア サイード
イ レヴィ=ストロース
ウ フーコー

- A 未開民族のもつ「野生の思考」には、文明人の科学的思考に少しも劣ることのない複雑な構造があることを明らかにし、西洋文明こそが優れており未開社会は野蛮で後れていると文化に優劣をつけることは間違いであり、諸文化は対等の価値をもつと主張した。
- B 近代以降の西洋文明社会は、人間理性を基準として、近代的秩序から逸脱するものを狂気、病気、犯罪といった「異常」とみなしてきたが、多様な人間や文化のあり方を、西洋近代の価値観を基準に序列化することには必ずしも根拠がなく、それが社会の監視や管理を強めてきたと批判した。
- C 近代西洋社会は、東洋を自分たちとは正反対の、後進的で神秘的な他者とみなすことで、自分たちは先進的で文明化されているという自己像を作り上げたとし、こうした西洋の東洋に対する思考方法を「オリエンタリズム」と呼び、それが西洋による植民地支配を正当化してきたと批判した。

- ① アーA イーB ウーC
② アーC イーA ウーB
③ アーB イーC ウーA
④ アーB イーA ウーC
⑤ アーC イーB ウーA
⑥ アーA イーC ウーB

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 6	28	①	3

2003 年本試

問 5 パレスティナ出身の現代の思想家サイードは、近代西洋の世界観の一つを「オリエンタリズム」として批判したが、次の文章を読んで、その趣旨として**適当でないもの**を下の①～④のうちから一つ選べ。

16

東洋の諸民族は、後進的、退行的、非文明的、停滞的などと様々に呼ばれる他の人々とひとまとめにされて、生物学的に劣っているがゆえに道徳的・政治的に教化されるべきものと見なされてきた。それゆえ東洋人は、西洋社会の中で排除されているある種の劣等な人々、(中略)つまり、その共通の特徴を述べるとすれば、嘆かわしいほど異質なという表現がぴったりであるような人々と同列に扱われてきたのである。東洋人が東洋人として、ありのままに見られ、注目されることはまれであつた。(中略)東洋人は従属人種の一員であつたがゆえに、従属させられなければならなかつた。

(サイード『オリエンタリズム』)

- ① オリエンタリズムは、東洋の特殊性や独自性を強調する見解であるとされるが、実際には西洋寄りの観点から構成された東洋観である。
- ② オリエンタリズムにおいては、東洋は学問、芸術、商業における進歩の本流からはずれており、保守的で奇妙な世界として扱われてきた。
- ③ オリエンタリズムにおいては、古来、東洋文化は西洋文化と対比して客観的に研究され、東洋人は西洋の中の異質な他者と見なされてきた。
- ④ オリエンタリズムは、東洋を特定の見方で研究し、真実の姿とはかけ離れた異国情緒豊かなものとして表現してきた思潮である。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 5	16	③	3